

設問別調査結果 [小学校算数A:主として知識]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	9		82.8
	量と測定	3		78.5
	図形	3		81.3
	数量関係	3		64.2
問題形式	選択式	5		76.7
	短答式	13		79.5
	記述式	0		

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			札幌市		全国(公立)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … +3.1ポイント以上 … +0.1ポイント~3.0ポイント … ほぼ同程度 … -0.1ポイント~-3.0ポイント … -3.1ポイント以下													
1(1)	153 + 49 を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる									0.2	95.1	0.1
1(2)	725 × 8 を計算する	整数の乗法の計算をすることができる									0.7	85.6	0.5
1(3)	204 ÷ 4 を計算する	整数の除法の計算をすることができる									1.3	95.4	1.0
1(4)	48.1 ÷ 1.3 を計算する	小数の除法の計算をすることができる									4.5	80.4	3.9
1(5)	7/6 - 2/6 を計算する	同分母の分数の減法の計算をすることができる									0.5	97.8	0.3
1(6)	80 - 30 ÷ 5 を計算する	減法と除法の混合した整数の計算をすることができる									1.6	66.8	1.3
2(1)	数直線上に示された1万より大きい数を読み取る	数直線から数を読み取ることができる									0.7	64.1	0.6
2(2)	100を45個集めた数を書く	数の構成について理解している									0.8	73.3	0.7
2(3)	74291を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	数を四捨五入して、概数で表すことができる									0.9	75.8	0.8
2(4)	整数の中から偶数を選ぶ	偶数の意味について理解している									1.7	77.4	1.1
3	千円札を長方形とみると、長い方の辺はどれくらいの長さか選ぶ	長さについての感覚を身に付けている									0.6	89.8	0.4
4	90度より大きい角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読む	角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読むことができる									0.6	78.8	0.4
5(1)	四角形を1本の対角線で2つの三角形に分けたときの、四角形の4つの角の大きさの和を求める式を書く	四角形の4つの角の大きさの和の求め方を理解している									11.8	67.9	10.3
5(2)	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ	長方形、直角三角形の定義や性質について理解している									1.5	83.4	1.4
5(3)	平行四辺形の2つの辺の長さが10cm、8cmのとき、指示された辺の長さを答える	平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解している									1.8	92.6	1.6
6	方眼上の三角形の面積を求める式を書く	三角形の面積を求めることができる									10.3	66.9	8.0
7	200人のうち80人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ	百分率を求めることができる									1.9	56.9	1.5
8	表に当てはまる資料の個数を答える	資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表すことができる									4.5	68.8	3.6

【設問分析】

1 四則計算

①は、整数、小数、分数の計算をすることができるかどうか、また、四則の混合した計算をすることができるかどうかを見るものであり、整数の計算が3問、小数の計算が1問、分数の計算が1問、減法と除法の混合した計算が1問の計6つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・繰り上がりのある加法「(3位数) + (2位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・整数の乗法「(3位数) × (1位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（3）】

- ・整数の除法の計算「(3位数) ÷ (1位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（4）】

- ・小数の除法「(小数) ÷ (小数)」の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問（5）】

- ・同分母の分数の減法「(真分数) - (真分数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（6）】

- ・減法と除法の混合した整数の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における「四則計算」については、過去2回と同様、全国平均を下回っているものが多い。特に、小数の計算においては、整数同士の計算部分まで正しく計算できたものの、小数点の扱いを間違う誤答が多く見られたことから、除法の計算においては、被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないことや、 $48.1 \div 1.3$ を $48 \div 1$ とみなして商の見当をつけて、計算結果の確認に生かすことなどについて指導の充実を図ることが大切である。

「数量関係」領域における「減法と除法の混合した整数の計算(80-30÷5)」では、式の左から順に計算する誤答が31.1%となっていることから、減法を先に計算した場合と、除法を先に計算した場合とでは、計算結果が異なることを指導するなど、計算のきまりについての理解を深めることが重要である。

計算は、様々な問題場面で活用するものであり、正しく計算できることが重要である。既習の内容と関連付けながら、数と計算の意味や仕組みについて学習する場を十分に保障するとともに、一人一人の学習状況に応じて十分習熟を図るようにしたい。

2 十進位取り記数法、数の相対的な大きさ、概数、偶数と奇数

②は、数直線から数を読み取ることができるかどうか、数の構成について理解しているかどうか、数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうか、偶数の意味について理解しているかどうかを見る設問であり、4つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・数直線から数を読み取ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（2）】

- ・数の構成に関する理解については、全国の平均正答率を上回っている。

【設問（3）】

- ・数を四捨五入して、概数で表すことについては、全国の平均正答率を下回っている。

【設問（4）】

- ・偶数の意味に関する理解については、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における「概数」及び「偶数の意味」については、全国の平均正答率を下回っている。概数については、「千の位までの概数」や「上から～桁の概数」など様々な表現が用いられることがあるため、これらの表現を十分に習熟する指導の工夫が求められる。偶数、奇数については、「0」をどちらにするかの判断が十分でない場合がある。本設問でも13.1%が「0」を偶数とすることができていないことから、数直線上に偶数と奇数を表現させるなど、その特徴を視覚的にとらえる活動を行うなど指導の工夫が必要である。

3 量の大きさについての感覚

③は、長さについての感覚を身に付けているかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。

- ・長さの感覚を身に付けているかについては、全国の平均正答率を下回っている。

「量と測定」領域における「長さの感覚を身に付けているか」については、全国の平均正答率を下回っている。

量の大きさについては、1 mや1 kgなど基準となる量の大きさについての感覚を身に付けることが大切である。身の回りから、1 mや1 kgのものを見つける活動を行うなど、量を見積もりながら測定する活動を行うなどの指導の充実が求められる。

4 角の大きさ

④は、角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読むことができるかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。

- ・角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読むことについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「量と測定」領域における「角の大きさを測定すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。角の大きさを測定する際に、直角を基にして、角の大きさが90度より大きいかどうかを判断するなど、角の大きさについての見通しを基にして考えられるようにする指導の工夫が求められる。

5 図形の定義や性質

⑤は、基本的な平面図形の定義や性質についての理解を見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・四角形の4つの角の大きさの和の求め方に関する理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・長方形、直角三角形の定義や性質に関する理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・「平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しい」という性質に関する理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」領域における「基本的な平面図形の定義や性質」については、いずれの設問も全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。特に、四角形の四つの角の大きさの和の求め方の理解については、全国と同様、正答率が低い状況である。四角形が三角形二つで構成されていることを基にして三角形二つ分の内角の和が四角形一つ分の内角の和と等しくなっていることを確認する指導の工夫が大切である。

6 三角形の面積

- 6は、三角形の面積を求めることができるかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。
- ・三角形の面積を求めることについては、全国の平均正答率を下回っている。

「量と測定」領域における「三角形の面積」については、全国の平均正答率を下回っている。面積を求めるために必要な長さを測定して、面積を求められるようにすることが大切である。例えば、辺の長さを示さずに図形を提示して、面積を求めるためにどの部分の長さが必要かを考える活動を取り入れたり、その長さを測定する活動を取り入れたりする指導の充実が求められる。

7 百分率

- 7は、百分率を求めることができるかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。
- ・百分率を求めることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数量関係」領域における「百分率」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているものの、全国と同様、正答率は低くなっている。今後とも、割合を求める場合、問題の場面から、何が比較量で、何が基準量かをとらえること、及び、 $(比較量) \div (基準量)$ で割合が求められることについて理解を深める指導の充実が重要である。また、割合に関する内容は第2学年以降の倍の意味の学習、整数倍の学習や少数倍の学習において、基にする量の何倍かというような考え方ができるようにして、基準量を意識できるようにする指導が求められる。

8 資料の整理

- 8は、資料を二つの観点から分類整理し、表を用いて表すことができるかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。
- ・資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表すことについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数量関係」領域における「資料の分類整理」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。資料を二つの観点から分類整理し、二次元表に表すことができるようにすることが大切である。また同時に、二次元表を読むことができるようにすることが大切である。例えば、本設問のような場合に、資料を四つの場合に分類整理したり、それらの四つの場合を言葉で表現したりする活動を取り入れたりする指導や、分類整理した資料が表のどこに位置付くのかを考えたり、表を完成したりする活動を取り入れたりする指導の充実が求められる。

設問別調査結果 [小学校算数B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	6		55.8
	量と測定	6		59.9
	図形	4		56.4
	数量関係	4		56.8
問題形式	選択式	2		68.9
	短答式	7		63.7
	記述式	5		36.8

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			札幌市		全国(公立)			
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 …… + 3.1ポイント以上 …… + 0.1ポイント～3.0ポイント -… ほぼ同程度 …… - 0.1ポイント～-3.0ポイント …… - 3.1ポイント以下															
1(1)	壁の高さを階段を使って調べるために必要な情報を選び、求める式を書く	図形を見だし、長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表すことができる										2.5	51.1	2.3	
1(2)	示された高い場所の長さを直接測らなくても、別の場所の長さを測れば調べることができるわけとして正しい記述を選ぶ	示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を、図形の性質を基に考えることができる										2.1	65.1	2.2	
1(3)	長方形の紙にかかれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を書く	示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述することができる										6.2	30.4	5.8	
2(1)	上皿てんびんで消しゴムと銅がつり合っていることを基に、消しゴムの重さを求める	整数と小数の加法を用いて、重さを求めることができる										1.0	90.2	0.8	
2(2)	3つの実験を基に、黒の球の重さの範囲を書き、その範囲に当てはまる重さを選ぶ	実験を基に筋道を立てて考え、重さの範囲を記述し、当てはまる重さを選択することができる										6.1	45.7	6.3	
3(1)	目的の時刻までに着くバスの発車予定時刻を時刻表から選び、その時刻を書く	与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することができる										5.9	39.8	6.5	
3(2)	船の入港数を表した棒グラフを見て、2005年の船の入港数が、最も多い年と比べて約何隻減少したのか答える	棒グラフから必要な数量を読み取り、差を概数で見積もることができる										6.4	54.8	6.2	
3(3)	2種類の品物を買うとき、与えられた条件では、ハンカチを買うともう1種類の品物を買えないわけを書く	情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することができる										-	8.8	33.9	9.2
4(1)	縦4cm、横5cmの長方形の板に縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰める図を2通りかき、必要なカードの枚数を書く	カードの敷き詰め方を2通りかき、必要なカードの枚数を求めることができる										2.7	79.1	2.5	
4(2)	縦5cm、横7cmの長方形の板に縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰められないと判断するための考えを書く	示された長方形の板にカードを敷き詰められないと判断する方法を記述することができる										17.9	56.1	17.6	
4(3)	縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰められない長方形の板を考え、その辺の長さを書く	調べた結果を振り返り、きまりを見だし、カードを敷き詰められない例をつくることことができる										10.2	48.8	9.0	
5(1)	4月に集めたペットボトルの重さをグラフから読み取る	グラフから必要な数量を読み取ることができる										5.4	82.0	4.8	
5(2)	グラフを見て、集めた空き瓶の重さの変化についての正しい記述を選ぶ	グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえることができる										6.0	72.8	5.3	
5(3)	4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く	基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することができる										8.5	17.7	7.6	

【設問別分析】

1 事象の観察と論理的な考察(階段)

①は、日常の事象を数理的にとらえ、事象を観察して図形を見出し、示された部分の長さを求めるために必要な情報を選択したりすること、問題解決の根拠となる図形の性質を判断すること、示された解

決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・階段から図形を見出し、示された部分の長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表すことについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を、図形の性質を基に考えることができるかどうかを見ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(3)】

- ・示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを数、言葉と式を用いて記述できるかどうかを見ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」及び「図形」領域における「階段から図形を見出し、示された部分の長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表すこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。今後、身の回りの事象を観察して図形を見出し、問題解決に必要な情報を選択できるようにする指導の工夫が大切である。

「図形」領域における「示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を、図形の性質を基に考えること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、根拠を明らかにして考えを進めることができるよう指導を工夫することが重要である。「示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを数、言葉と式を用いて記述できるかどうかを見ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。また、全国と同様、正答率が低くなっている。今後、必要な内容をもれなく含んで説明を記述することや、言葉や数、式、図などを用いて自分の考えを説明できるようにする指導の充実が重要である。

2 事象の数学的な解釈と処理(上皿てんびん)

②は、示された実験を基に、整数と小数の加法の計算を用いて、重さを求めることや、筋道を立てて考え、重さの範囲を数学的に表現し、示された数値の中から適切なものを選択することができるかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・整数と小数の加法を用いて、重さを求めることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・三つの実験から分かることを基に筋道を立てて考え、表のまとめ方に則して、重さの範囲を言葉を用いて記述し、その範囲に当てはまる重さを選択することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「量と測定」及び「数と計算」領域における「整数と小数の加法を用いて、重さを求めること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、整数と小数の位をそろえて計算できるようにする指導の継続が求められる。

「量と測定」領域における「三つの実験から分かることを基に筋道を立てて考え、表のまとめ方に則して、重さの範囲を言葉を用いて記述し、その範囲に当てはまる重さを選択すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、全国と同様、低い状況となっている。今後、複数の情報を分かりやすく整理して、過不足なく表現できるようにすることや、情報を基に筋道を立てて考え、結論を導き出すことができるようにすることや、問題解決の際に、その目的や求める事柄を明確にして考えを進めることができるようにする指導の充実が必要である。

3 情報の選択と判断の根拠の説明（港博物館）

③は、日常の事象を数理的にとらえ、条件を考慮して筋道を立てて考えること、グラフから数量を読み取り、差を概数で見積もること、与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することについては、全国の平均正答率を上回っている。

【設問（2）】

- ・棒グラフから必要な数量を読み取り、差を概数で見積もることについては、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。

【設問（3）】

- ・与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述することについては、全国の平均正答率と同程度である。

「量と測定」領域における「与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択すること」については、全国の平均正答率を上回っているが、全国と同様、正答率は低い状況である。今後、問題解決のために必要な条件を明確にして整理できるようにする指導や、条件を基に、筋道を立てて考えられるようにする指導の充実が求められる。

「数量関係」及び「数と計算」領域における「棒グラフから必要な数量を読み取り、差を概数で見積もること」については、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。今後とも、グラフなどの資料から数量を読み取る際には、目的に応じて、読み取る対象を明確にできるようにする指導の充実が重要である。

「数と計算」領域における「与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と同程度であるが、全国と同様、正答率が低い状況である。今後とも、判断の正しさを説明する場合に、理由として必要な事柄をもれなく示して述べるようにする指導の充実が必要である。

4 事象の数理的な側面に着目し振り返って考えること（カードの敷き詰め）

④は、長方形の面積や辺の長さに着目して、カードの敷き詰め方を複数考えること、示された板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を数学的に表現すること、様々な大きさの板にカードを敷き詰めることができるか否かを調べた結果を振り返り、きまりを見出し、カードを敷き詰めることができない場合の例をつくることのできるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・カードの敷き詰め方を2通りかき、必要なカードの枚数を求めることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（2）】

- ・長方形の面積や辺の長さの数値の特徴を基に、示された長方形の板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を考え、それを言葉や式を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（3）】

- ・様々な大きさの板にカードを敷き詰めることができるか否かを調べた結果をまとめた表が示された場面で、長方形の面積や辺の長さの数値の特徴に着目して決まりを見出し、カードを敷き詰めることができない場合の例をつくることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「図形」及び「量と測定」領域における「カードの敷き詰め方を2通りかき、必要なカードの枚数を求めること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、問題解決の際には、問題を確実に理解できるようにする指導が望まれる。

「数と計算」及び「量と測定」領域における「長方形の面積や辺の長さの数値の特徴を基に、示された長方形の板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を考え、それを言葉や式を用いて記述すること」「様々な大きさの板にカードを敷き詰めることができるか否かを調べた結果をまとめた表が示された場面で、長方形の面積や辺の長さの数値の特徴に着目して決まりを見出し、カードを敷き詰めること」については、いずれも全国の正答率と比較して、やや上回っているが、全国と同様、正答率が低い状況である。今後とも、自分の考えや解決方法を筋道を立てて説明できるようにする指導や、帰納的に考える場面で、調べた結果を振り返ってきまりを見出すことができるようにするとともに、見出したきまりを基に新たな例をつくることができるようにする指導の充実が求められる。

5 資料の数学的な解釈と判断の根拠の説明（リサイクル）

5は、示されたグラフの特徴を理解し、グラフから必要な数量を読み取ること、グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえること、割合の大小を判断し、その理由を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・4月に集めたペットボトルの重さをグラフから読み取ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・グラフの特徴を基に、集めた空き瓶の重さの4月から6月までの変化の様子をとらえることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（3）】

- ・4月と6月の集めたもの全体の重さとペットボトルの重さを基にして、割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数量関係」領域における「4月に集めたペットボトルの重さをグラフから読み取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。今後、算数の学習以外にも、社会科や理科などの学習で様々な種類のグラフを用いて問題解決に取り組む指導の充実が大切である。

「数量関係」領域における「グラフの特徴を基に、集めた空き瓶の重さの4月から6月までの変化の様子をとらえること」「4月と6月の集めたもの全体の重さとペットボトルの重さを基にして、割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、様々なグラフから目的に応じて数量の変化をとらえたり、グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえられるようにしたりする指導や、割合には基準量と比較量の二つの量が関係していることを理解させる指導の充実が重要である。

算数学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きですか	40.4	25.7	19.2	14.5
算数の勉強は大切だと思いますか	70.5	21	5.8	2.6
算数の授業の内容はよく分かりますか	42.9	33.3	16.8	6.8
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	52	24.8	15.5	7.4
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	41.1	34.1	18.4	6.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	29.5	31.9	25.8	12.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	62.8	24	9	3.9
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	45.2	31.9	16.7	5.9
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	45.3	33.5	16	4.9
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	48.2	31.1	14.9	5.5

（単位は％）

< 設問分析 >

「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、66.1%となっており、全国平均を0.1ポイント下回っている。本質問については、昨年度調査において、肯定的な回答が63.3%と、同様の傾向が見られている。今後、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。

「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、91.5%となっており、全国平均を0.4ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。本質問については、昨年度調査において、肯定的な回答が90.4%と、同様の傾向が見られている。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫するなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行なうことが求められる。

「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.2%となっており、全国平均を3.0ポイント下回っている。本質問については、昨年度調査において、肯定的な回答が74.4%と、同様の傾向が見られている。今後、一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが重要である。

「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.8%となっており、全国平均を1.5ポイント下回っている。本質問につ

いては、昨年度調査において、肯定的な回答が 74.1%と、同様の傾向が見られている。今後、既習を活用して新しい問題を解決することを大切にした学習を充実することが大切である。

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、75.2%となっており、全国平均を 1.6 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 73.6%と、同様の傾向が見られている。今後、多様な考え方を試すなど、試行錯誤しながら問題解決する学習の工夫が求められる。

「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、61.4%となっており、全国平均を 2.6 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 61.6%と、同様の傾向が見られている。引き続き、日常生活の場面において算数が活用されているものを探するなど、算数の有用性を感じ取らせる指導の充実が求められる。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、86.8%となっており、全国平均を 1.4 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。本設問については、昨年度調査における 85.1%と比べると、同様の傾向が見られている。今後とも、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。

「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、77.1%となっており、全国平均を 1.0 ポイント下回っている。今後、より効率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切にした学習の工夫が求められる。

「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、78.8%となっており、全国平均を 0.1 ポイント上回っている。今後、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見つけた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなど、授業を工夫することが求められる。

「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、79.3%となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。今後、問題を見通しをもって筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、自分で問題を解決する力を高める指導の工夫が求められる。